

2008年 4月 24日

広島市長 秋葉忠利 様

日本共産党広島市市会議員団



団長 皆川 恵史

幹事長 中森 辰一

中原 ひろみ

村上 あつ子

藤井 とし子

広島市としてB52核爆撃機による航空ショーの中止を求める事についての要請書

米軍岩国基地において5月5日に行なわれる航空ショーに、「核攻撃できる戦略爆撃機」B52が参加することが明らかになりました。B52はベトナム戦争で、枯葉剤やナパーム弾を巻きちらし、イラク戦争やアフガニスタン戦争で住民の殺りくを繰り返すなど、今でも第一線で戦闘に加わっています。航空ショーへの参加で日本に飛来するさいの核搭載の有無も確認されていません。核攻撃できる戦略爆撃機が、被爆地・広島に近くに来ること自体、被爆地の市民にとっては耐えがたいことです。

1972年、当時の大平正芳外相が駐日大使に、国民感情の上でB52の飛来は台風避難など、真にやむを得ない場合に限定するよう申し入れ、米側も「厳重に限定する」と回答しています。この政府の立場からも今回の飛来は中止すべきです。

岩国基地の航空ショーは、戦闘機を身近に観たり、触れたり、乗ったりすることで、子ども達に戦争への抵抗感をなくし、慣れさせるものです。

岩国基地の再編強化に反対している地元・岩国市民と連帯するうえでも、第一線で戦闘を行なっているB52の航空ショーの中止を、米国と日本政府に求められるよう要請します。